



奥峰 1711m (木曽川源流部) (積雪期
ピークハント／縦走 / 槍・穂高・乗鞍)

by
gekiyabu 

日程：

2012年04月02日(日帰り)

メンバー：

gekiyabu

地図：



標高グラフ：

コースタイム：

5:33 駐車余地--5:36 グレンデ--6:26 稜線--6:30 1680m峰(グレンデ西端)--6:41 奥峰 6:47--6:57 1680m峰--7:21 林道--7:24 駐車余地

コース状況／その他周辺情報：

- ・現状では登山道は無いらしいが地元で登山道整備中の模様(ネット検索の結果)。笹藪が深いため、事実上、雪のある時期しか登れない
- ・登山ポストなし
- ・やぶはらスキー場最上部西端から往復が最短(スキー場は今年の営業は終了)
- ・危険箇所無し
- ・山頂は樹林で展望なし
- ・スキー場から奥峰往復だけでは軽すぎるので、北方の大笹沢山も合わせて登るのがよい

 写真：



林道除雪終点。スキー場メ
ンテ用駐車場



駐車場からゲレンデに入る



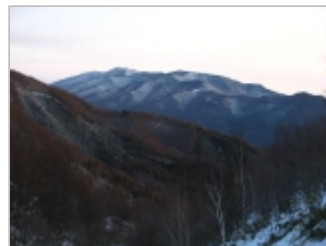
圧雪され踏み抜き皆無で快
適



標高約1400m



ゲレンデ案内図



鉢盛山



コブが登場



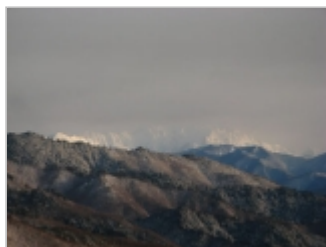
傾斜がきつくなる



稜線に出た



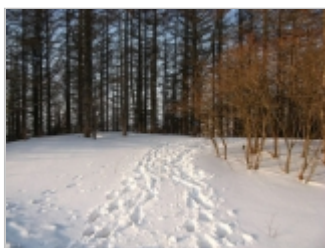
大笹沢山が見える



穂高は雲がかかっていた



ゲレンデ西端ピーク



西端ピークから足跡があっ
たがこの先で戻っていた



昨日のスノーシューの跡の
み続いていた



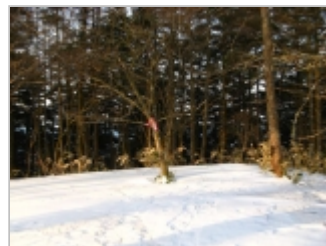
これは自分の足跡



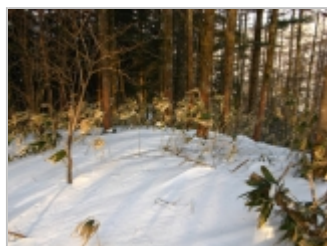
奥峰向かって登る



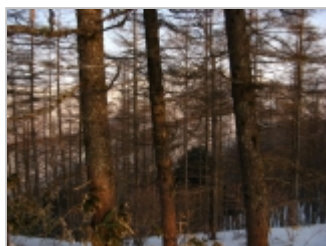
スノーシュー跡の上を歩く



奥峰山頂



西側は笹が出ていた



奥峰から見た大笹沢山。唐
松植林で見えない



大笹沢山方面に向かう



こちらの尾根上も唐松植林



雪庇ができていた



雪庇の下は霧氷で白い



1680m峰



1680m峰で北東に下る



この黄色い目印が延々と続
く



カモシカの足跡



自分の足跡



1630m肩



1590m付近



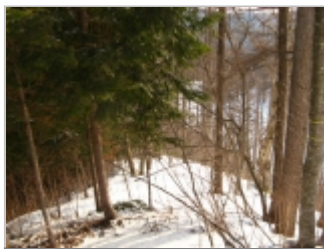
1530m尾根分岐点

1530m尾根分岐点で左に
曲がる。黄色い目印もこの
尾根に続く

1490m付近



1430m付近で林道を横断

1410m付近でも林道を横
断

まだ尾根は続く

尾根末端付近。除雪された
林道

林道に出た

感想／記録 : (by gekiyabu)

概要

やぶはら高原スキー場北側を通る林道除雪終点付近からミニ周回。往路はグレンデを登り、帰路は西側の尾根を下った。グレンデ最上部西端の1680m峰から先は前日のスノーシュー跡あり。冷え込んで雪が締まりワカンを使わずに奥峰山頂まで行けた。山頂は樹林で展望なし。スノーシューは大笹沢山方向へと続いていたが、私は1680m峰で北東に下る。唐松植林が続き灌木藪無し、積雪もあって笹無しで快適に下れた。稜線の積雪は50cm程度、雪庇は1m以上。大笹沢山へ雪が有効利用できるのはあと1,2週間か。なお、この前日で今シーズンのスキー場営業は終了。

奥峰は鎌ヶ峰から延びる尾根の一角にあり、木曽川源流の木祖村に位置する(旧木曽福島町との境界)。地形図には破線が描かれているがネットで検索しても雪がある時期にやぶはら高原スキー場から登った記録のみで、無雪期に登山道を歩いた記録は発見で

きなかった。ただ、地元では有志が現在夏道開削中(2010年10月までは作業実施)らしく、そのうち山頂まで道ができるかもしれない。その記事によると予想通り強固な笹藪とのこと。ここは常識的に雪がある時期に登るとする。スキー場のリフトを利用するのが一番楽だろうが、足を向けた日は今シーズン最終営業日の翌日、つまり営業終了日であったので、山頂まで歩くことになった。

歩くことが確定しているのでできるだけ車で標高を上げようと、ゲレンデ北側の車道を車で上がっていき、ダートになってもさらに上がり除雪終点の駐車場(ただしスキー場関係者用)より少し下った路側に駐車。まだ気温が低くツルツルに凍結した箇所もあってダートで助かった。舗装道路だったら2WD車ではスタッドレスでもチェーンを巻かないと登れなかったと思う。除雪終点駐車場前の前に立つ建物は煌々とライトが灯っており、営業終了しても機器のメンテ等で作業は続いているらしい。

本日の冬装備はワカン、6本爪計アイゼン、それにピッケル。ピッケルを使えばたぶんアイゼンは不要だろう(アイゼン付けるのが面倒)。気温が低くたぶん-5,6℃、雪は締っていてワカンは不要かもしれないが、地獄を見ないとも言えないので準備だけは整える。

ゲレンデに上ると圧雪されているので非常に歩きやすい。気温が低く雪を踏むとキュッキュと音がする。それでいてアイスバーンではないのでアイゼンも不要で足が軽い。最初は遠慮してゲレンデ端を歩いていたが、下部から見えなくなる場所まで達してから真ん中を歩いた。

傾斜が増して谷を登るようになるとモーグルのコースとなって小さなコブが連続する。そして部分的にアイスバーンが混じるようになり、表面に柔らかい雪が乗っている場所を選んで歩いた。ここを下るときにはアイゼンが必要だろう。

斜面を登り切るとなだらかな稜線に到着、ここも圧雪されて全く沈まない。ゲレンデ西端の1680m峰でっぺんまで圧雪は続き、奥峰方向に多数の足跡が残っていた。昨日に大パーティーが往復したのだろうかと思ったら20m程で足跡が途切れていた。この先は足跡は無いと思ったら新雪の下にうっすらとスノーシューの跡が残っていた。雪が飛ばされたところでは明瞭で、単独の人のものだった。奥峰とつながる稜線はなだらかで、唐松植林が続き灌木藪は皆無で歩きやすかった。笹は完全に雪の下らしく全く見られない。雪質は締って登山靴のままでも沈む深さは数cmだが、たまにズボッと踏み抜くことがある。スノーシュー跡は踏み抜きにくいのでその上を歩いた。ワカンを付けてもいいのだが、山頂までの距離は短いのでこのまま行こう。

最後に緩やかに登ってなだらかなピークに到着。頭上は開けているが周囲は背の高い唐松植林で展望は皆無。真ん中には小ぶりの落葉樹があり境界標識が付けられているだ

けで山頂標識は無かった。西側には茎が太い笹が顔を出しており、道が無ければ無雪期は強固な笹藪は確実だ。スノーシュー跡はここまでであった。積雪はたぶん50cm程度。この時期で多いのか少ないのかは不明だ。

帰りは往路を辿ってゲレンデを下ろうと考えていたが、アイゼンを付けるのが面倒なのでゲレンデを外してどこか尾根を下ろうと発想を転換。地形図を見ると大笹沢山へと続く北西の尾根の最初のピーク(1680m峰)から北東に延びる尾根を辿れば末端で林道除雪終点に出ることが分かり、これを下ることにした。時間に余裕があれば大笹沢山まで足を延ばすのだが、明日のお仕事を考えて自重することに。

スノーシュー跡は大笹沢山へと続く尾根上にもあって、足跡主は大笹沢山まで登ったらしい。さすがスノーシューだと踏み抜き跡は皆無で快適に歩けたことだろう。尾根東側には小規模な雪庇が連なり、風下側の木は霧氷や雪が付いて真っ白できれいだった。

1680m峰でスノーシュー跡と別れて北東尾根に乗り換え。この尾根も唐松植林が続き明瞭で今は天候が良く視界ばっちりで進路をしっかりと確認できる。唐松には黄色い目印が点々と巻かれており、林業作業用なのか登山者が付けたものかは不明だが、かなり下部まで続いていた。標高1530mで尾根が屈曲する場所もその方向に目印が付いていたので、私の歩くルートと同一であった。

尾根上にはカモシカや小動物の足跡が見られた。風下側で稜線に近い場所の方が稜線上より新雪が多く、多い所で20cmくらい積もっていたが非常に軽いパウダースノーでラッセルの足も軽かった。標高が落ちるとともに新雪量も減っていった。標高1500mくらいになると多少笹が見られるようになったが、多くの笹は雪の下だろう。

標高1400強で尾根上を林道が2回横断、地形図に無いが除雪終点から続く道だろう。大笹沢山東側を巻く林道とつながっているのかもしれない。なおも尾根を下ると除雪された林道が見えていた。正確に尾根末端まで行かずに途中で左側斜面を下って林道に出るとゲートがあり「笹川林道」の標識。このまま林道を歩けば1、2分で車に戻れるが、下りは自然地形だけで行こうと林道を横断して奥峰沢を渡る。意外に水量があって場所を選ばないと渡れないし、石の配置が良く渡れそうな場所でも水しぶきで石の表面に氷が張ってツルツルで足が置けず、やっと渡れそうな場所を捜し出して渡れた。素直に林道を歩けばよかった。